

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

筑波大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	.....	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	.....	5
《本文》	.....	9
《判定結果一覧表》	.....	19

## 法人の特徴

### 大学の基本的な目標

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念とし、我が国における大学改革を先導する役割を担っている。人類社会の調和の取れた発展の鍵を担う知の拠点として、大学にさらに大きな社会的役割が求められるなか、筑波大学は、知の全ての分野において幅広い教育研究活動を展開することが可能な総合大学として、個性と自立を基軸とし、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した教育研究を充実・強化すべく、以下の目標を掲げる。

1. 自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野において、深い専門性を追求すると同時に、既存の学問分野を越えた協同を必要とする領域の開拓に積極的に取り組み、国際的に卓越した研究を実現する。
2. 高度で先進的な研究に裏打ちされた学士課程から博士課程までの教育を通じて学生の個性と能力を開花させ、豊かな人間性と創造的な知力を蓄え、自立して国際的に活躍できる人材を育成する。
3. 科学技術研究機関が集積する筑波研究学園都市の中核として、教育研究諸機関および産業界との連携に積極的に取り組み、自らの教育研究機能の充実・強化を図るとともに、広く社会の発展に貢献する。
4. アジアをはじめ世界の国々や地域に開かれた大学として、国際的通用性のある教育研究活動の展開と連携交流に積極的に取り組み、国際的な信頼性と発信力を有する大学を実現する。
5. 教員と職員のそれぞれが個性と多様な能力を発揮しつつ協働することにより、次代における大学のあり方を追求し、新しい仕組みを実現するための大学改革を先導する。

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、従来の制度にとらわれない「新構想大学」として、昭和 48 年 10 月に開学した。創設時の構想は、「開かれた大学」「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」を特色としており、開学以来、教育研究と大学運営の全般にわたって数々の先駆的な試みを実施し、大学改革の先導的役割を果たしてきた。平成 25 年に開学 40 周年を迎えたのを機に、未来に向けて革新的な挑戦を不断に続ける「未来構想大学」として更なる発展を図っている。

本学が立地する筑波研究学園都市は、我が国を代表する知の集積地であり、本学はその中核を担いつつ、国内外の教育研究機関及び社会との連携・交流を深めながら、先端的・独創的な知の創出と個性輝く人材の育成を通じて世界に貢献すべく、教育研究の高度化、大学の個性化、大学運営の活性化など、活力に富み、国際競争力ある大学づくりに取り組んでいる。

本学は、人文・社会・理学・工学・農学・医学・体育・芸術・図書館情報など広範かつ特色ある学問分野を有しており、学問の進展や社会的要請の変化に柔軟に対応しうる弾力的な教育研究システムを備え、それぞれの分野における専門性の深化とともに、既存の分野にとらわれない学際的な教育研究を推進している。

また、平成 26 年のスーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受け、我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を拓くべく、教育研究のトランスボーダー化を加速する全学的な国際戦略、提携戦略等を策定するとともに、研究力及び教育力の強化からガバナンス改革にわたる多様な施策を展開している。

学士課程段階における教育組織である学群・学類は、学生の幅広い興味・関心に応えることのできる柔軟で自由度の大きい教育システムを特色としており、確かな専門性と広い視野、柔軟な思考力を持った人材を育成していく上で、重要な役割を担っている。学士課程における教育の枠組みを社会に明示するとともに教育目標・目的を明確化する「筑波スタンダード」の策定により、本学の教育に対する社会の理解を深めつつ、また教育の質の持続的向上を図っている。

大学院については、博士課程研究科を中心とする運営体制を基に、筑波研究学園都市に立地する環境を活かし、多数の研究機関と連携して専攻レベルの新たな連携大学院方式（連係大学院）を開始しているほか、社会人を主たる対象とした二つの夜間専門職学位課程を開設している。大学院における人材育成機能の強化を図るべく、カリキュラムの充実や新たなプログラムの開発に取り組んでいる。

さらに本学では、大学又は大学院課程で分野を横断する学位プログラム等の実施・運営を行うことを目的として、平成 23 年 12 月に「筑波大学グローバル教育院（School of Integrative and Global Majors : SIGMA）」を設置した。グローバル教育院では、「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された学位プログラムや、本学が独自に開設する学術分野横断的な学位プログラムの運営を行っている。国際的互換性と国際的協調性を持つ学位プログラム制への移行に向け、引き続き検討・体制整備を推進することとしている。

研究面では、本学が有する幅広い学問分野において、各々が世界的な卓越性を追求するとともに、分野を超えた柔軟な連携と融合による学際的研究の展開を重視している。このため独創的な個人研究や若手研究から、将来の拠点につながるグループ研究、世界的拠点の形成に至るまでの戦略的な研究支援システムをフレキシブルに整備するとともに、特に世界最高水準の拠点形成に向けて研究戦略イニシアティブ推進機構により強力な支援を重点的に行っている。また、国内外の産学官連携による共同研究の実施や研究成果の移転・活用とそのため体制の充実を積極的に進めている。特に国際的な知の拠点としてのさらなる発展を目指す筑波研究学園都市においては、つくば国際戦略総合特区プロジェクトをはじめ、研究機関等との有機的連携において中核的な役割を果たすべく、地域社会も含めた連携によるイノベーションの創出を目指している。

併せて、リサーチ・アドミニストレーター（URA）の育成・確保を通じて、本学の研究推進体制・機能の強化、研究活動活性化のための環境整備、研究開発マネジメントの強化を推進している。

豊かな自然に囲まれた広大なキャンパスには、国内外を問わず様々な出身地の学生が集まっており、多様性に富んだ交流が活発に行われている。外国人留学生数は全国でも有数であり、今後更なる増加が見込まれる。また、障害学生支援にも先進的に取り組んでおり、

このような特色をさらに確かなものとするべく、グローバルレジデンス整備事業、学生相談・支援体制の再構築等による、きめ細かな学生支援策を講じている。さらに東京キャンパスは、社会人のための夜間大学院の展開に大きく寄与しており、そのさらなる充実と併せて、産学官連携や入試広報、学生の就職活動支援、卒業生との交流等、社会的ニーズを的確に捉えた一層の有効活用を推進している。

さらに、特別支援学校5校を含む11校からなる附属学校群では、それぞれ特色ある活動を展開するとともに、大学と附属学校との多様な連携・協力によるグローバル人材育成やオリンピック教育等も推進している。また、附属病院においては、経営のさらなる健全化を図りつつ地域医療への貢献、国際化対応を進めるとともに、学際融合による様々な取組による先進的医療の提供・開発体制の構築を進めている。

IMAGINE THE FUTURE. という言葉に託した未来への想像力により、創造的かつ個性的に、国際性豊かな知の拠点としてリーダーシップを発揮し、地球規模問題の解決と未来地球社会の創造に向けた知を創出するとともに、それを牽引するグローバル人材を育成し、世界トップクラスの大学と伍することを目指している。

### **【個性の伸長に向けた取組】**

教育面においては、本学の教育改革の基本方針である学位プログラム制への移行に向け、先進的に取り組み、欧米での大学間チューニングの調査・研究を実施するなど、第3期における国際的互換性と協働性を持った教育システム構築を見据えたカリキュラム整備を推進したほか、企業・研究機関や海外大学との連携拡大による環境整備を推進した。

(関連する中期計画) 計画1-1-2-1、1-1-2-3、1-1-2-5

また、研究面では、世界トップレベルの研究拠点構築を目指し、学長のリーダーシップの下、研究戦略イニシアティブによる重点的支援を実施するとともに、研究に関わる企画・運営組織の充実強化、研究支援システムの最適化推進などによる基盤整備により着実な成果を挙げることが出来た。

(関連する中期計画) 計画2-1-1-2、2-2-1-1、2-2-1-2

さらに、スーパーグローバル大学創成支援事業推進として、本学とパートナー大学による教育研究資源を相互活用する仕組みである Campus-in-Campus を核とした環境整備に取り組んだ。

(関連する中期計画) 計画3-2-3-1

### **【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】**

平成23年3月11日の東日本大震災により、つくば市は震度6弱を記録し、本学も甚大な被害を受けた。しかし、いち早く大学としての機能を復旧させるとともに、他の被災地の支援活動を含めた復興に努めた。

#### 1. 復旧活動及び危機管理体制の整備

本学施設については総合体育館や体育・芸術系図書館など180棟・約46億円、設備については研究基盤総合センターの大型加速器や大型機械など約23億円の被害を受けた。これ

に対して、政府による補正予算や学内予算を措置し、優先順位を付して整備を進めた結果、被害の大きかった大型加速器や総合体育館を除き、24年度内に復旧を完了した。

一方で、東日本大震災により被災した学生（180名）に対し、入学料・授業料・寄宿料の特別免除、緊急支援奨学金や災害義援金による経済支援を実施した。

また、危機対応体制・システムと危機管理基本マニュアルを点検し、新たに危機管理規則を制定するとともに、自然災害等の事象別マニュアルを盛り込んだ「危機管理に関する基本計画」を策定し、危機管理体制を整備・充実した。さらに、毎年、巨大地震の発生を想定した全学防災訓練を実施するとともに、定期的に防災講演会を開催し、関係者の防災意識の向上を図った。

## 2. 震災復興支援活動

東日本大震災以降、被災地の復興・再生を支援するため、総合大学である本学の多様な分野の知見を最大限に活用した「東日本大震災復興・再生支援プログラム」（26件・約70百万円）等による支援活動を展開し、「放射線対策」、「産業再生・創出」、「防災・まちづくり」、「健康・医療・心のケア」「科学振興・人材育成」「教育・文化・スポーツ支援」等に取り組んだ。

また、これらの活動に組織的・戦略的に取り組むため、「復興・再生支援ネットワーク」を構築し、復興・再生支援活動の窓口の一元化や情報の収集・発信などを行うとともに、茨城、福島、宮城3県の8自治体と連携協定を締結し、本学と地方自治体とが連携・協力して復興を推進した。緊急性に加え中長期的な観点から、幅広い取組を実施するとともに、コーディネーターの採用による情報収集・発信力を強化し、市民を対象とした震災復興シンポジウムの開催、復興支援活動に関する報告書の作成、専用サイトによる活動紹介等を行った。

（具体的な社会還元の実例は「計画3-1-1-1（P71）」に記載）

## 3. 附属病院の取組

東日本大震災発生の際、附属病院においては、非常事態に対応した診療体制を迅速に編成し被災患者を受入れるとともに、メディカルスタッフ延べ160人以上を被災地へ派遣し、併せて医療物資の支援を行うなど、被災地近隣における中核的病院としての機能を十分に果たした。

また、附属病院による被災地への継続的な支援として、医療支援、小児甲状腺超音波検査、心のケア、被曝スクリーニングを実施し、メディカルスタッフ延べ104人を派遣した。また、慢性期災害医療など被災地の多様な医療ニーズに的確かつ迅速に応えるため、「つくば災害復興緊急医療調整室（T-DREAM）」を設立した。

診療等の受入体制維持が困難な状況下に置かれた医療機関を支援するため、被災地医療支援委員会からの要請に基づき、平成23年～平成26年において麻酔科医、整形外科医、小児科医、循環器内科医（延べ17人、80日間）を被災地へ派遣した。

## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、筑波大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	2	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好	1		1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 国際化に関する目標	良好		2	1	

### ＜主な特記すべき点＞

#### 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 国立研究開発法人や民間企業等との協議体を母体とする協働大学院方式を導入したライフサイエンス分野の学位プログラムであるライフイノベーション学位プログラムを開設し、平成 27 年度から学生の受入を行っており、オックスフォード大学（英国）、モンペリエ大学（フランス）等の海外の大学との連携により、17 名の外国人教員がプログラムに参画している。（中期計画 1-1-2-5）

#### 個性の伸長に向けた取組

- 教育組織編制に関する大学の基本方針を策定し、学内研究科・専攻間のデュアル・ディグリー・プログラムを新たに 16 プログラム設置し、合計 20 プログラムに拡充している。また、国立台湾大学（台湾）、ボルドー大学（フランス）等の海外の大学との間でダブル・ディグリー・プログラムを新たに 9 プログラム設置し、合計 11 プログラムに拡充している。さらに、平成 23 年 12 月に筑波大学グローバル教育院を設置し、ヒューマンバイオロジー学位プログラム、エンパワーメント情報学プログラム、ライフイノベーション学位プログラムの 3 つの分野横断型学位プログラムを運営している。（中期計画 1-1-2-3）

- 研究戦略イニシアティブ推進機構では、重点研究センター、学術センター、プレ戦略イニシアティブ研究拠点、プレ戦略イニシアティブ（プロジェクト提案型）等に対して重点的研究支援を行っている。特に、平成 24 年度に文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）事業に採択された国際統合睡眠医科学研究機構に対し研究支援を行ったことにより、著名な学術誌に論文が複数掲載されている。（中期計画 2-1-1-2）

#### 注目すべき取組

- 文部科学省のがんプロフェッショナル養成プランの採択により e-Learning システム「プログラムジュークボックス：PJ」を開発し、大学間の相互交流と高等教育の質の向上に寄与できる取組であることが評価され、平成 23 年度に第 8 回日本 e-Learning 大賞文部科学大臣賞を受賞している。また、「がんプロ全国 e-Learning クラウド」として連携を 5 拠点 33 大学に拡大し、「次世代プログラムジュークボックス：PJ 2」を新たに構築、運用している。（中期計画 1-2-2-1）
- 平成 23 年度設置のサイバニクス研究センターで製作したロボットスーツ HAL はロボット治療・医療機器として欧州で医療機器に認証され、ドイツでは労働保険の対象となっている。また、「重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニクスシステム」が内閣府の最先端研究開発支援プログラム（FIRST）に採択され、同センター長が内閣府の革新



的研究開発推進プログラム (ImPACT) のプログラムマネージャーに採用されている。  
サイバニクス研究センターでの研究の成果として、415 編の学術論文の出版、国内 42 件、  
海外 17 件の特許出願、国内 5 件、海外 17 件の特許登録及び 28 件の受賞等がある。

(中期計画 2-1-1-3)

#### <復旧・復興への貢献・支援活動等に関する顕著な取組>

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、つくば市は震度 6 弱を記録し、筑波大学も甚大な被害を受けた。しかし、いち早く大学としての機能を復旧させるとともに、他の被災地の支援活動を含めた復興に努めた。

##### ○ 復旧活動及び危機管理体制の整備

施設については総合体育館や体育・芸術系図書館など 180 棟・約 46 億円、設備については研究基盤総合センターの大型加速器や大型機械など約 23 億円の被害を受けた。これに対して、政府による補正予算や学内予算を措置し、優先順位を付して整備を進めた結果、被害の大きかった大型加速器や総合体育館を除き、24 年度内に復旧を完了した。

一方で、東日本大震災により被災した学生 (180 名) に対し、入学料・授業料・寄宿料の特別免除、緊急支援奨学金や災害義援金による経済支援を実施した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。



## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

##### ○各種教育プログラムの実施

中期目標(小項目)「大学院課程においては、自立して国際的に活躍できる人材を育成するために、深い専門性のほか、幅広い学際性と異分野融合性を併せ持つ世界水準の教育課程の組織的展開を強化する。」について、教育組織編制に関する大学の基本方針を策定し、学内研究科・専攻間のデュアル・ディグリー・プログラムを新たに16プログラム設置し、合計20プログラムに拡充している。また、国立台湾大学(台湾)、ボルドー大学(フランス)等の海外の大学との間でダブル・ディグリー・プログラムを新たに9プログラム設置し、合計11プログラムに拡充している。さらに、平成23年12月に筑波大学グローバル教育院を設置し、ヒューマンバイオロジー学位プログラム、エンパワーメント情報学プログラム、ライフイノベーション学位プログラムの3つの分野横断型学位プログラムを運営している。(中期計画1-1-2-3)

○鹿屋体育大学との共同学位プログラムの開設

中期目標（小項目）「大学院課程においては、自立して国際的に活躍できる人材を育成するために、深い専門性のほか、幅広い学際性と異分野融合性を併せ持つ世界水準の教育課程の組織的展開を強化する。」について、平成 27 年度に鹿屋体育大学との間で体育・スポーツ学分野における 2 つの共同学位プログラムを開設するとともに、遠隔講義システム等を活用した教育を実施している。また、平成 28 年度から 2 つの共同専攻を設置することが決定している。これらの取組は国立大学改革強化推進補助金の中間評価結果において、「計画以上に事業が進捗しており、当初の目的以上の成果を達成することが可能と判断される」となっている。（中期計画 1-1-2-4）

○協働大学院方式を導入した学位プログラムの開設

中期目標（小項目）「大学院課程においては、自立して国際的に活躍できる人材を育成するために、深い専門性のほか、幅広い学際性と異分野融合性を併せ持つ世界水準の教育課程の組織的展開を強化する。」について、国立研究開発法人や民間企業等との協議体を母体とする協働大学院方式を導入したライフサイエンス分野の学位プログラムであるライフイノベーション学位プログラムを開設し、平成 27 年度から学生の受入を行っており、オックスフォード大学（英国）、モンペリエ大学（フランス）等の海外の大学との連携により、17 名の外国人教員がプログラムに参画している。（中期計画 1-1-2-5）

○芸術専門学群における教育成果の活用

芸術専門学群において、全学共通科目「アート・デザインプロデュース」の活動は、筑波大学附属病院新棟「けやき棟」等の病院環境の設計に応用されている。（現況分析結果）

**（特色ある点）**

○社会人のニーズに対応した早期修了プログラムの実施

中期目標（小項目）「入学者受入れの方針を明確化し、優秀な学生の受入れを実現する方法と体制を整備する。」について、全研究科にわたって組織や学生定員の見直しに取り組むとともに、社会人の学位取得ニーズに対応した博士後期課程早期修了プログラム（4 研究科・19 専攻）では、博士後期課程を最短 1 年で修了できる教育プログラムを実施しており、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 1 年で修了した 133 名を含む 152 名の修了生を輩出している。（中期計画 1-1-3-2）

## ○早期修了プログラムにおける達成度評価システムの導入

中期目標（小項目）「教育の質保証を確保するための国際水準の仕組みを確立する。」について、博士後期課程早期修了プログラムでは、学位の質を保証する観点から、入学時、中間審査、予備審査等の3段階以上の審査ステージにおいて、7項目に関して評価することを基本とした達成度評価システムを導入している。（中期計画 1-1-4-3）

## （2）教育の実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## ＜特記すべき点＞

（優れた点）

## ○e-Learning システムの運用

中期目標（小項目）「学生本位の視点に立った教育の質の向上に資する環境整備を実施する。」について、文部科学省のがんプロフェッショナル養成プランの採択により e-Learning システム「プログラムジュークボックス：PJ」を開発し、大学間の相互交流と高等教育の質の向上に寄与できる取組であることが評価され、平成 23 年度に第 8 回日本 e-Learning 大賞文部科学大臣賞を受賞している。また、「がんプロ全国 e-Learning クラウド」として連携を 5 拠点 33 大学に拡大し、「次世代プログラムジュークボックス：PJ 2」を新たに構築、運用している。（中期計画 1-2-2-1）

(3) 学生への支援に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生への経済支援の充実

中期目標(小項目)「留学生、障害学生、社会人学生を含む全ての学生に充実した学習活動を保証するため、多様できめ細やかな支援を実施する。」について、平成22年度に奨学金つくばスカラシップの運用を実施し、経済的に支援が必要な学生に対して平成27年度までに延べ1,205名を支援している。また、平成23年度から大学独自の入学料免除及び授業料免除の予算を確保し、平成27年度までに延べ1,497名を支援している。さらに、平成23年の東日本大震災により授業料等の納付が困難となった学生に対して授業料免除等の緊急経済的支援を実施し、平成27年度までに延べ588名に対して各種給付型奨学金の支給及び入学料・授業料免除等による経済支援を行っている。(中期計画1-3-1-2)

(特色ある点)

○学習活動支援の取組

中期目標(小項目)「留学生、障害学生、社会人学生を含む全ての学生に充実した学習活動を保証するため、多様できめ細やかな支援を実施する。」について、総合相談窓口では、対応日数を増やすなどの取組により、学生相談件数は平成22年度の3,400件から平成27年度の3,854件へ、総合相談件数は平成22年度の357件から平成27年度の631件へ、精神保健相談件数は平成22年度の4,219件から平成27年度の5,028件へ増加している。また、学生の「やってみたい」を応援するつくばアクションプロジェクト(T-ACT)では、活動報告会やボランティアカフェの開催、地域のイベント等において情報発信を行ったことにより、ボランティア団体登録件数は、平成24年度の2件から平成27年度の32件へ増加するとともに、T-ACTの活動に対する外部評価委員会による評価では、5点評価のうち評価点4.0となっている。(中期計画1-3-1-1)

## (Ⅱ) 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 2. 中期目標の達成状況

#### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

#### ○研究戦略イニシアティブ推進機構における重点的研究支援

中期目標(小項目)「自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野において、深い専門性を追求するとともに学際的な領域を積極的に開拓し、国際的に卓越した水準の成果を達成する。」について、研究戦略イニシアティブ推進機構では、重点研究センター、学術センター、プレ戦略イニシアティブ研究拠点、プレ戦略イニシアティブ(プロジェクト提案型)等に対して重点的研究支援を行っている。特に、平成24年度に文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)事業に採択された国際統合睡眠医科学研究機構に対し研究支援を行ったことにより、著名な学術誌に論文が複数掲載されている。(中期計画2-1-1-2)

#### ○サイバニクス研究センターにおけるロボットスーツ HAL の製作

中期目標(小項目)「自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野において、深い専門性を追求するとともに学際的な領域を積極的に開拓し、国際的に卓越した水準の成果を達成する。」について、平成23年度設置のサイバニクス研究センターで製作したロボットスーツ HAL はロボット治療・医療機器として欧州で医療機器に認証され、ドイツでは労働保険の対象となっている。また、「重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニクスシステム」が内閣府の最先端研究開発支援プログラム(FIRST)に採択され、同センター長が内閣府の革新的研究開発

推進プログラム (ImPACT) のプログラムマネージャーに採用されている。サイバニクス研究センターでの研究の成果として、415 編の学術論文の出版、国内 42 件、海外 17 件の特許出願、国内 5 件、海外 17 件の特許登録及び 28 件の受賞等がある。(中期計画 2-1-1-3)

○ビジネスサイエンス系・ビジネス科学研究科における研究の推進

ビジネスサイエンス系・ビジネス科学研究科において、第 2 期中期目標期間における教員一人当たりの研究業績数は年度平均 5.1 件となっている。

(現況分析結果)

○ビジネスサイエンス系・ビジネス科学研究科における研究成果による各賞の受賞

ビジネスサイエンス系・ビジネス科学研究科において、情報処理学会学会活動貢献賞、組織学会高宮賞等、14 件の賞を受賞している。(現況分析結果)

○数理物質系・数理物質科学研究科における研究の推進

数理物質系・数理物質科学研究科において、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理の「格子 QCD を用いた核子間相互作用の研究」による各種受賞や機能物性化学の「相転移金属酸化物の機能性開拓に関する研究」による特許取得等、多くの卓越した研究成果がある。(現況分析結果)

○数理物質系・数理物質科学研究科における理工融合型共同研究の推進

数理物質系・数理物質科学研究科において、理工融合型共同研究を積極的に展開して独創的成果を生み、国際的研究拠点を形成することを目的とし、筑波研究学園都市の研究機関と理工融合によるつくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点 (TIA-nano) を形成するなどの研究活動を展開している。

(現況分析結果)

○計算科学研究センターにおける研究の推進

計算科学研究センターにおいて、卓越した研究業績として、高性能計算の「超並列実アプリケーションの高速化」があり、平成 23 年度にゴードン・ベル賞を受賞している。また、気象・海洋物理・陸水学の「都市気候の研究」では、国際会議等において 6 回の招待講演を行い、関連論文の被引用数は 500 回を超えている。(現況分析結果)



## (2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## &lt;特記すべき点&gt;

(優れた点)

## ○共同利用・共同研究拠点に対する研究支援体制の整備

中期目標(小項目)「全国的な共同利用・共同研究や、国内外の研究機関との連携の強化により、大学の枠を超えた国際的な研究体制を構築する。」について、下田臨海実験センターが中核機関である海洋生物学研究共同推進拠点は、文部科学省の共同利用・共同研究拠点の期末評価においてB評価であるものの、海洋生物学研究共同推進拠点のほか、計算科学研究センター、遺伝子実験センターの3共同利用・共同研究拠点に対して設備整備や教職員の増員配置等の支援を行うことにより、下田臨海実験センターにおける Aquatic Ecosystems をテーマにした国際シンポジウムの開催や計算科学研究センターにおける著名な学術誌への論文掲載、遺伝子実験センターにおける国際賞受賞等の研究成果がある。また、遺伝子実験センターではフランス国立農学研究所(ボルドーセンター)との間でジョイントラボを相互開設し、学生・教員・研究員を延べ84名派遣し、44名を受け入れているほか、双方向型共同研究等の推進により、大型競争的資金を獲得している。(中期計画2-2-3-1)

## ○人文社会系・人文社会科学研究科における研究拠点の構築

人文社会系・人文社会科学研究科において、平成25年度の研究大学強化促進事業の採択に伴い、「人文社会国際比較研究機構(ICR)」を設置し、平成27年度に総合言語科学ラボラトリー、アジア地域の気候変動と社会問題解析ラボラトリーを設置することで、国際研究拠点形成による地球規模課題の解決に向けた研究の高度化を図っている。(現況分析結果)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 芸術専門学群における地域住民等との協働による実践的教育活動の実施

芸術専門学群において、東日本大震災の被災地に赴き、地域住民等との協働作業に取り組むなどの実践的な教育活動を行う「多領域と芸術の融合による創造的復興に向けた人材育成プログラム」は、他学群及び学類の卒業単位として認定しており、多くの学生が履修している。また、プログラムの成果は多くのマスメディアに取り上げられている。(現況分析結果)

(特色ある点)

- 他機関との連携による研究開発の環境整備及び社会的課題の解決に向けた取組

中期目標(小項目)「筑波研究学園都市における機関間連携の促進により教育研究活動を高度化・多様化する。」について、国際的に卓越した水準の研究推進に向け、つくば国際戦略総合特区の支援組織として、平成23年度につくばグローバル・イノベーション推進機構を設置し、リソースの有効活用を目的とした共通プラットフォームの体制を構築し、産業化に向けた研究開発の環境を整備している。また、筑波研究学園都市の7機関で構成されるつくば3Eフォーラム委員会において、事務局機能を担当し、つくば市の環境モデル都市選定に寄与しているほか、同市の環境モデル都市行動計画でつくば3Eフォーラムが連携組織として

位置付けられるなど、地域における社会的課題の解決に向け中核的役割を果たしている。(中期計画 3-1-2-1)

## (2) 国際化に関する目標

### 【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

#### ○海外大学との国際交流事業の推進

中期目標(小項目)「国際的に卓越した教育研究の促進に資する国際戦略を構築・実行する。」について、海外拠点を12か国・地域13か所に、海外大学等との協定締結を61か国・地域、322機関に拡充している。新興国の海外拠点を基盤に、4件の大学の世界展開力強化事業、スーパーグローバル大学創成支援、グローバル人材育成推進事業(特色型)による地域研究イノベーション学位プログラム等を通じて欧州、アジア、ロシア、中南米等で活躍するグローバル人材の育成、日本-北アフリカ学長会議の開催、日本・アフリカ大学連携ネットワークの形成等の活動を推進している。(中期計画 3-2-1-1)

#### ○人間総合科学研究科における教育プログラムの英語化

人間総合科学研究科において、グローバル人材の養成と国際通用性の涵養に関する教育の質を高める取組を実施している。特に、組織的な若手研究者海外派遣事業と頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣事業により大学院生の海外派遣を実施するとともに、教育プログラムの英語化を専攻全体で推進している。

(現況分析結果)

#### (特色ある点)

#### ○スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

中期目標(小項目)「徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、世界大学ランキングトップ100を目指すための取組を進める。」について、スーパーグローバル大学創成支援事業の目標達成に向け、平成27年度に教育研究資源を相互活用する仕組みである Campus-in-

Campus (CiC) 包括協定をボルドー大学（フランス）及び国立台湾大学（台湾）と締結している。また、教育研究ユニットとして、平成 26 年度に人文社会分野 1 ユニット、医学医療系分野 2 ユニット、平成 27 年度に生命環境分野 2 ユニット及び数理物質系 2 ユニットの招致を進めている。（中期計画 3-2-3-1）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>学士課程においては、自立して国際的に活躍できる人材の基盤を形成すべく、幅広い学びの保証と課題解決能力の育成という高次の目標の達成に向け教養教育を再構築するとともに、各分野の特性を反映した体系的な教育課程を編成・実施する。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	<p>本学の学士課程における教育理念・目標に留意しつつ、学士課程共通の学習成果並びに学問分野別の学習成果に関する目標を明確化して学位授与の方針を策定し、教育課程編成・実施の方針と合わせて、本学学士課程の教育宣言としての「筑波スタンダード」の改定に反映・公表する。</p>	おおむね良好	
1-1-1-2	<p>学習成果の達成に向け、共通教育と専門教育との有機的接続に留意しながら、順次性のある体系的な教育課程を編成・実施する。</p>	おおむね良好	
1-1-1-3	<p>高学年向けの共通教育の実施や専門の英語への橋渡し科目新設を柱とした新しい教養英語カリキュラムの導入等により教養教育を再構築し、平成23年度から実施する。</p>	おおむね良好	
<p>大学院課程においては、自立して国際的に活躍できる人材を育成するために、深い専門性のほか、幅広い学際性と異分野融合性を併せ持つ世界水準の教育課程の組織的展開を強化する。</p>		良好	
1-1-2-1	<p>大学院課程の教育目標を明確化して、大学院教育及び学位の質を担保する「筑波スタンダード（大学院版）」を策定・公表し、これに基づき体系的で実質化された大学院カリキュラムを編成・実施する。</p>	良好	
1-1-2-2	<p>修士課程と博士課程との有機的接続にも留意しながら、幅広い学際性と適正な研究倫理観の修得を目指した現行の「大学院共通科目」を拡充し、制度化する。</p>	おおむね良好	
1-1-2-3	<p>幅広い学際性や異分野融合性を必要とする分野における教育課程の革新を目指して、複数研究科間の教育課程の設置、海外の大学との連携を含む各種デュアル・ディグリープログラムを実施する。</p>	非常に優れている	優れた点
1-1-2-4	<p>鹿屋体育大学と体育・スポーツ学分野における共同専攻の設置を目指し、共同学位プログラム等を実施する。</p>	良好	優れた点
○ 1-1-2-5	<p>国際的通用性のある教育システムの構築を目指し、欧米における大学間チューニング（専門分野別に学位の互換性を認め合うための調整）の調査・研究を行うとともに、企業・研究機関やボルドー大学（フランス）等の海外大学と連携した、ライフサイエンス分野における学位プログラムの平成29年度までの導入に向けて制度設計・構築を行う。</p>	良好	優れた点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
1-1-2-6	国際バカロレア教育研究システムの開発を目指し、平成30年度までにIB教員養成学位プログラムの開設、附属学校のIB教育導入及びIB教育と学士課程の接続の円滑化を一体的に進めるための体制整備・調査研究を行う。		おおむね良好	
入学者受入れの方針を明確化し、優秀な学生の受入れを実現する方法と体制を整備する。			おおむね良好	
1-1-3-1	学士課程の入学者選抜においては、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に従って、自発的に学習し所期の成果を収めることのできる優秀な学生を受入れるために、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準の明示を含めた入学者受入れの方針及び選抜内容・方法を明確化する。		おおむね良好	
1-1-3-2	大学院課程の入学者選抜においては、人材育成の目標を明確化し、社会人や留学生を含めた幅広い優秀な学生を受入れるとともに、安定的な学生定員の充足と継続的な教育の質保証を実現する。		良好	特色ある点
1-1-3-3	学士と大学院の両課程において、優秀な学生の確保と柔軟かつ適正な入学時期を実現するとともに、入試業務負担の見直しを行い、全体としてバランスのとれた入学者選抜体制を再構築する。		おおむね良好	
教育の質保証を確保するための国際水準の仕組みを確立する。			おおむね良好	
1-1-4-1	厳格かつ公正な成績評価基準を作成・公表し、全ての授業科目において授業シラバスに則った成績評価を実施する。		おおむね良好	
1-1-4-2	成績の評点のあり方を再検討し、国際的な通用性に配慮したGPA（GradePointAverage）あるいはそれに類する客観的評価指標を用いた評価基準を全学的に導入・実施する。		おおむね良好	
1-1-4-3	大学院における教育及び学位の質を担保し、これを社会的に保証する仕組みとして学問分野に即した達成度評価システムを開発・実施する。		良好	特色ある点
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
教育企画機能の一元化と教育実施機能の効率化を図るとともに、教育の計画・実践・評価・改善サイクルの保証システムを開発・実施する。			おおむね良好	
1-2-1-1	教育企画・実施組織の全学的な見直しを行い、教育の責任体制と権限・役割を明確化する。		おおむね良好	
1-2-1-2	教育課程の定期的な見直し・改善と、教職員の職能開発（FD）の活動を基軸とする教育の計画・実践・評価・改善のサイクルを構築し、教育の質を向上させる。		良好	
1-2-1-3	教職員の職能開発のために対象別・目的別のFD研修会を毎年度実施するとともに、優れたTA（TeachingAssistant）をTF（TeachingFellow）として採用するTF制度の確立やポストク等を活用した若手教育研究者の育成により、教育の実施体制を充実する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	学生本位の視点に立った教育の質の向上に資する環境整備を実施する。	良好	
1-2-2-1	e-Learningの実施に係る情報基盤及び支援体制の整備を行い、教授機能の充実や学生の自習環境を整備するとともに効率的な学習管理を実現する。	非常に優れている	優れた点
1-2-2-2	授業実施体制を見直し、教育の実質化を実現させる柔軟な学期制の運用方法を開発・実施する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
留学生、障害学生、社会人学生を含む全ての学生に充実した学習活動を保証するため、多様できめ細やかな支援を実施する。		良好	
1-3-1-1	学生支援の拠点であるスチューデントプラザと、各種支援組織（保健管理センター、障害学生支援室、留学生センター等）及び各教育組織が緊密な連携体制を整備・運用し、学習・生活・メンタルケア・課外活動などにおける学生の多様なニーズに応える総合的な学生支援を実施する。	良好	特色ある点
1-3-1-2	本学独自のきめ細やかな経済支援制度を整備し、有効に運用する。	良好	優れた点
全ての学生に快適で安全な学生生活環境を提供する。		おおむね良好	
1-3-2-1	わが国有数の美しく広大なキャンパスと多数の学生宿舎を有する本学の長をを活かしつつ、安全で質の高いキャンパスライフを提供する。	おおむね良好	
全ての学生の多様な進路希望に応えるキャリア・就職支援を充実する。		おおむね良好	
1-3-3-1	大学院生や留学生にも対応しうるキャリア・就職支援を整備・充実する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野において、深い専門性を追求するとともに学際的な領域を積極的に開拓し、国際的に卓越した水準の成果を達成する。		非常に優れている	
2-1-1-1	自然と人間、社会と文化に係る幅広い分野において、学術の長期的展望に立った質の高い基礎研究を推進するとともに、既存の学問分野を超えた協同を必要とする領域を積極的に開拓する。	良好	
2-1-1-2	国際的に高い成果の期待される分野、学際融合を先導する萌芽的な分野、世界トップレベルの拠点形成を目指す「国際統合睡眠医科学研究機構」における睡眠医科学分野など、本学の特色ある分野における研究を学長のリーダーシップの下で重点的に実施する。	非常に優れている	優れた点
2-1-1-3	サイバニクス研究センターの体制を整備し、ロボット医療機器による健康医療の社会的課題解決に向け、基礎研究から世界水準の臨床研究、社会実装まで含めた医工融合研究を推進する。	非常に優れている	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
2-1-1-4	国・地域社会や産業界と連携し、国内外の社会的課題の解決に積極的に取り組む研究を推進する。		良好	
研究水準・成果を国際的な水準の観点から検証するとともに、さらなる質的向上に繋げるためのシステムを整備する。			おおむね良好	
2-1-2-1	研究水準・成果を国際的な水準の観点から検証するシステムを整備・運用するとともに、その結果を各研究者・研究組織にフィードバックすることにより高度な研究を推進する。		おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
学際的且つ国際的な研究を推進するために研究企画機能と研究支援の体制を充実強化する。			おおむね良好	
2-2-1-1	本部と教員組織である系の双方において研究に関わる企画・運営組織を充実強化し、両者の密接な連携の下に、学際的且つ国際的な研究の進展を促す。		おおむね良好	
2-2-1-2	個人研究からグループ研究まで分野の特性に応じた研究の様態と研究の発展段階を考慮しつつ、研究活動状況と研究戦略に基づいて基盤的研究経費と重点戦略経費を配分する研究支援システムを運用・改善する。		良好	
2-2-1-3	優れた研究成果を上げることが期待される研究グループや研究組織等に対し、研究資源の配分や研究支援者の配置、組織再編など、拠点形成のための適切な支援を重点的に行い、国際的な拠点形成を積極的に推進する。		おおむね良好	
2-2-1-4	研究センター（研究関係の学内共同教育研究施設）について、本部の主導の下に学内関係組織と協力して評価と見直しを行い、将来計画を策定・実施し、学際的で国際的な研究活動を展開する。		良好	
2-2-1-5	サイバニクス研究センターなど強みのある分野を形成・強化し、国際的な拠点形成を目指すため、平成30年度までに学内全ての研究センターの機能別再編成を実施すべく、研究センターの調査・分析を行い、再編計画を策定するとともに、前臨床がんの基礎探索研究拠点の構築に向けて体制を整備する。		おおむね良好	
研究の質の向上に資する環境整備を実施する。			おおむね良好	
2-2-2-1	重要度及び緊急度を踏まえた設備整備に関するマスタープランに基づき研究設備の整備を行う。		おおむね良好	
2-2-2-2	研究支援センター（研究支援関係の学内共同教育研究施設）について、研究の動向に即して改組・再編し、その機能を積極的に高度化する。		おおむね良好	
全国的な共同利用・共同研究や、国内外の研究機関との連携の強化により、大学の枠を超えた国際的な研究体制を構築する。			良好	
2-2-3-1	共同利用・共同研究拠点として「先端学際計算科学共同研究拠点」、「海洋生物学研究共同推進拠点」及び「形質転換植物デザイン研究拠点」を設置し、研究推進のための研究資源を重点的に措置することにより、大学の枠を超えた国際的な研究体制を構築し、国際水準の研究を実施する。また、双方向型共同研究等の新しい取組を積極的に推進する。		良好	優れた点



中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>		おおむね良好	
<b>① 社会との連携や社会貢献に関する目標</b>		おおむね良好	
社会との緊密な連携により、知的成果を積極的に社会に還元する。		おおむね良好	
3-1-1-1	大学の知的ポテンシャルと社会の課題解決ニーズを双方向に結びつけることにより、大学と社会との研究等を通じた交流・貢献を強化する。	おおむね良好	
3-1-1-2	開かれた大学として社会の要請を的確に捉え、東京キャンパスの機能強化と有効活用等により、生涯を通じた高度で幅広い学習機会を提供する。	おおむね良好	
筑波研究学園都市における機関間連携の促進により教育研究活動を高度化・多様化する。		良好	
3-1-2-1	筑波研究学園都市における組織・人・施設設備のネットワークを強化し、その有機的連携により、連携大学院の強化充実や、つくば3Eフォーラム等の社会的課題の解決を目指す活動など、多様な教育研究活動と人材育成を展開する。	良好	特色ある点
<b>② 国際化に関する目標</b>		良好	
国際的に卓越した教育研究の促進に資する国際戦略を構築・実行する。		良好	
3-2-1-1	国際戦略の基本方針を明確化し、それに基づき海外の大学・研究機関との戦略的交流・連携を強化・拡充するとともに、新興国に対する教育支援・共同研究を通じた国際貢献を推進する。	良好	優れた点
留学生交流と研究者交流の拡充により、国際的な人材交流を推進する。		おおむね良好	
3-2-2-1	英語のみで学位取得可能なコース及び単位互換の拡充、留学生に対する日本語・日本文化教育や生活支援・キャリア支援等のさらなる充実により、国際化に相応しい教育環境を整備し、優秀な留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を着実に増加させる。	良好	
3-2-2-2	国際公募による外国人教員の任用拡大、戦略的な海外大学・研究機関との連携を活かした研究者の相互交流などにより、国際的な研究者の受入れ・派遣と研究活動を拡充・強化する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、世界大学ランキングトップ100を目指すための取組を進める。	良好	
3-2-3-1	スーパーグローバル大学創成支援「トランスボーダー大学がひらく高等教育と世界の未来」事業の目標達成に向け、本学とパートナー大学（海外3大学）でキャンパスを相互共有し、教育研究資源を相互活用する仕組みであるCampus-in-Campusを核として、科目ジュークボックスの構築（設計・開発、設備導入、科目の蓄積）、教育研究ユニットの招致（3ユニット）及び新たな学士課程学位プログラムの開設に向けた準備（検討組織の設置、コーディネータ教員の配置、カリキュラム編成）等の取組を進め、平成25年度と比較して留学生受入数を300名、日本人海外派遣学生を200名増加させる。	良好	特色ある点

## 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間においては、国際的通用性のある教育システムの構築を目指し、欧米における大学間チューニング（専門分野別に学位の互換性を認め合うための調整）の調査・研究を行うとともに、企業・研究機関やボルドー大学（フランス）等の海外大学と連携した、ライフサイエンス分野における学位プログラムの導入に向けて制度設計・構築を行う計画を進めている。国立研究開発法人や民間企業等との協議体を母体とする協働大学院方式を導入したライフサイエンス分野の学位プログラムであるライフイノベーション学位プログラムを開設し、平成27年度から学生の受入を行うとともに、オックスフォード大学（英国）、モンペリエ大学（フランス）等の海外の大学との連携により、17名の外国人教員がプログラムに参画している。</p>
-----	--